

わたSHIGA輝く国スポ 競技別リハーサル大会 開催



来年に開催するわたSHIGA輝く国スポのリハーサル大会として次のとおり大会を開催します。また、10月19日～20日、11月2日～4日には、『無料ふるまいコーナー』を設置し、数量限定で皆さんにお菓子などをふるまいます。ぜひ白熱した試合の観戦にお越しください。

サッカー

大会名	日程	会場
第60回全国社会人サッカー選手権大会	10月19日(土)、20日(日)※1・2回戦	水口スポーツの森 陸上競技場

※19日は大津市、20日は守山市が大会を運営します。

大会の見どころ

当大会の成績上位最大3チームには、「全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2024」への出場権が与えられ、さらに勝ち進み一定の条件を満たすと、「日本フットボールリーグ(JFL)」への参入が可能となります。このため、当大会は非常に重要な試合であり、白熱した試合が繰り広げられます。



軟式野球・高校野球(軟式)

大会名	日程	会場
第28回西日本軟式野球選手権大会	11月2日(土)～4日(月・振)	水口スポーツの森 甲賀市民スタジアム
令和6年度秋季近畿地区高等学校軟式野球大会	11月9日(土)、10日(日)、16日(土)	

大会の見どころ

硬式と比べて打球が飛びにくいとされる軟式野球は、1点を争うロースコアの試合展開になりやすいのが特徴です。バントやヒットエンドラン、さらにはボールの特性を活かして地面に叩きつけるバッティングなど、緻密な攻撃が多く用いられます。いかにして点を取るか、守り切るかは硬式以上の緊迫感があり、試合展開から目が離せません。

問 国スポ・障スポ推進室 ☎ 69-2253 ☎ 69-2290



企業版ふるさと納税でご寄附をいただきました

企業版ふるさと納税を活用して、アイテック株式会社様からご寄附をいただき、8月28日に感謝状贈呈式を執り行いました。いただいたご寄附は、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、環境と経済・社会活動が調和した持続可能なまちづくりのために、大切に使用させていただきます。



企業版ふるさと納税について
詳しくはこちら▶



▲アイテック株式会社 佐藤代表取締役社長(右)と正木副市長(左)

問 政策推進課 ☎ 69-2106 ☎ 69-2105

折り鶴に平和への願いを込めて ～広島平和記念事業に市内小学6年生15人が参加～

新型コロナウイルス感染症拡大防止などの影響により実施を見送っていた広島平和記念事業を、今年度再開することができました。8月5日、6日の2日間、市内小学6年生15人が広島平和記念式典などに参列し、原子爆弾の恐ろしさや平和の尊さを学びました。参加児童が平和への願いを込めた感想文(抜粋)を一部紹介します。



核兵器や戦争のことを知るだけでなく、ほかの人との違いを認め合い、みんなで協力しないと平和は訪れないと気づかされました。安心して暮らせる日常に感謝し、大切な家族、友達を傷つけないことは平和な世界を作るために一番必要で今すぐに行えることでもあります。

今までは遠い昔の話だと思っていましたが、「もし今いきなり原爆が落ちてきて家族が死んでしまったら自分はどうやって生きていけばいいんだろう」と、原爆による被害を自分のこととして考えるようになりました。原子爆弾や核兵器がない平和な社会を実現させるためにはどうすればよいか、常に考え続けていきたいです。

平和記念式典で戦争の恐ろしさを改めて感じました。尊い命が奪われるだけでいったい誰が得をするのでしょうか。世界に平和が訪れることを願っていますが、願っているだけでは平和は訪れません。一人でも多くの方に広島で起こった原爆のことを伝えたいと思います。

問 総務課 ☎ 69-2120 ☎ 63-4086

平和の実現へ ～「語り継ぐ平和への思い」開催～



8月18日あいこうか市民ホール展示室で、広島平和記念事業に参加した市内小学生5名による報告会と広島からお招きした伝承者の甲斐晶子さんによる伝承講話会が開催されました。参加児童からは「広島に行って原子爆弾による被害を自分のこととして考えるようになった。原爆は絶対に存在してはならない。平和な社会の実現のためにどうすればよいか常に考え続けていきたい」と平和への思いを発表いただきました。また、伝承者の甲斐さんからは小学3年生の時に被爆された方の体験を中心に、原子爆弾や放射能の恐ろしさ、平和への思いなどをお話いただきました。80名以上の幅広い年齢層の方々が参加され、真剣に耳を傾けていました。



▲広島で感じたことを発表する児童

【参加された方々の声】(アンケートから一部抜粋)

- 願っているだけでは平和はこない(12歳以下)
- 被爆体験の苦しみや原爆の影響で今も苦しんでいる人がいることを知った(13～19歳)
- 広島に行った児童の言葉が刺さった。貴重な経験をされたことがよく分かった(20,30代)
- 児童の方々の後世に伝えたいという誓いが心に残る(60,70代)
- 伝承の大きな意義を体感し、子どもたちにも聞かせたいと思った(40,50代)
- 戦争遺児としてこのような企画が続いていくことを願っています(80代以上)



▲被爆者の体験を語る甲斐さん

問 総務課 ☎ 69-2120 ☎ 63-4086